

「彼は秘密の女ともだち」 ★★★

2015 (平成27) 年8月22日鑑賞

シネ・リーブル梅田>

監督：フランソワ・オゾン

クレール (親友のローラを亡くし、悲しみに暮れる主婦) / アナイス・ドゥムースティエ

ダヴィッド (=ヴィルジニア。ローラの夫) / ロマン・デュリス

ジル (クレールの夫) / ラファエル・ペルソナ

ローラ (クレールの親友。夫のダヴィッドと幼い娘を残して死去) / (イジルド・ル・ベスコ)

リズ / オーロール・クレマン

ロベール / ジャン=クロード・ポル=レダ

エバ・カールトン / ブルーノ・ベラル

子守 / クロディーヌ・シャタル

看護師 / アニタ・ジリエ

看護助手 / アレックス・フォンダ

ウェイトレス / ジタ・ハンロ

2014年・フランス映画・107分

配給 / キノフィルムズ

◆少女時代からの大の親友ローラ (イジルド・ル・ベスコ) が、夫のダヴィッド (ロマン・デュリス) と、生まれたばかりの女の子を残してあの世へ。映画冒頭、そんな親友の葬儀で本作の主人公クレール (アナイス・ドゥムースティエ) は、約束どおり「いつまでも一緒だよ。」と哀悼の辞を述べ、「残された夫と幼い娘は私が面倒をみる。」とタンカを切ったが、ある日ダヴィッドの家をのぞいてみると、アレレ……。

そこでクレールが目にしたのは、女モノのワンピースを着て、赤ん坊をあやしているダヴィッドの姿だったからビックリ。そこで、クレールがダヴィッドに話を聞いてみると、ダヴィッドは前から女装趣味があり、ローラもそれを知っていたとのこと。しかし、突然そんなことを言われても……。

◆私はこの手の映画は苦手。ダヴィッドを演じるロマン・デュリスは『タイプスト!』(12年)でレイ・エシャル役を演じた細めの俳優。(『シネマルーム31』114頁参照)だから、女モノの服もよく似合うが、私にはハッキリ言って気持ち悪い。そんなダヴィッドの趣味 (いや、レッキとした性癖) に乗っかって、一緒に女モノの服の買い物に付き合ったりする分にはまだいいが、「あるところ」に一緒に出かけたり、さらに共にベッドの中に入ったりするようになると、アレレ……。

そのうえ、夫のジル (ラファエル・ペルソナ) からダヴィッドとの仲を疑われたクレールは、ダヴィッドの秘密をジルに隠すため、ダヴィッドはゲイの趣味があると説明したところ、テニスコートのシークエンスではホントにダヴィッドとジルがゲイの関係に……?

もっとも、それはクレールの幻想だったのかもしれないが、いくらフランス映画とはいえ、またいくらフランソワ・オゾン監督の作品だとはいえ、ここまで男女の区別が分からなくなってくるとヤレヤレ……。少しうんざり……。

◆ダヴィッドを演じ、子煩悩なパパの姿と妖艶な女の姿を演じ分けたフランス人俳優ロマン・デュリスは、本年で2015年セザール賞主演男優賞にノミネートされたらしい。たしかに彼は本作でそれにふさわしい熱演をしている。その限度でなら私も十分オーケーだが、女装をし、女モノの下着姿で女としてクレールと「あの行為」に及ぶのはレズビアン?それとも男女の性交?

ベッドの上で途中までレズビアン的にダヴィッドとの行為にスムーズにのめりこんでいたクレールが、最後の一線に至ってハッと我に返り、行為を中断してしまうシーンを見ると、その「ワケのわからなさ感」が強くなっていく。そのうえで、幻想かホントかは別として、ダヴィッドがテニスコートに備え付けられているシャワー室の中でクレールの夫ジルと力強い男同士でのファック(?)を展開している風景を見ると、もはや「気持ち悪さ」だけ……。

◆来る2016年11月に予定されているアメリカの大統領選挙では、民主党はヒラリー・クリントン氏 (前国務長官)、共和党はジェブ・ブッシュ氏 (元フロリダ州知事) が本命視されていたが、今やその行方は混沌としている。その論点は安保から経済問題まで多岐にわたるが、同性愛をオーケーとするかどうか、ホントは一つの争点だ。アメリカでもそれを認める意見が強くなっているし、日本でもそれは同じだが、フランスは今や同性愛の大国に……?

私は個人の性的志向性にとやかく口を挟むつもりはないが、やっぱりこの種の映画は苦手だ。もっとも、ある新聞記事によれば、ライターの岩永久美氏は「フランソワ・オゾンは、様々なテーマを試して、常に目先を変えつつ進化してきた監督だが、これまでの中で、本作が一番、彼自身の内面を色濃く映した作品ではないかという気がする。」と評しているが……。